

2026 年 8 月 3 日

ドイツでライン川の水位が低下

～物流停滞によるコスト増や供給制約が懸念～

経済調査部 首席エコノミスト 田中 理

(Tel : 050-5474-7494)

(要旨)

- 欧州の内陸水上輸送を支えるライン川の水位が歴史的な水準に低下している。貨物船の積載制限や代替輸送などが必要となり、輸送コストが上昇している。今年は過去の渇水時に比べて水位低下のタイミングが早い。例年、夏から秋にかけては一段と水位が低下しやすい。更なる水位低下で工場の操業停止が広がり、一部製品の供給不足などに発展する恐れがある。

歴史的な猛暑が続くドイツでは、ライン川の水位が再び史上最低水準に低下しており、経済活動への影響が懸念される。スイスの山岳地帯からドイツ西部を抜け、欧州最大の港があるオランダのロッテルダム近郊で北海に流れ出るライン川は、ドイツの工業生産や水上輸送を支える大動脈として知られる。流域にはドイツを代表する商業都市、化学や鉄鋼などの工業関連施設、火力発電所などが立ち並ぶ。中流にあるラインラント＝プファルツ州のカウプ周辺の水位は、7月31日には25センチまで低下し、2018年に記録した過去最低と並んだ(図)。週末にかけて僅かに回復したものの、引き続き歴史的な低水位にある。1991～2020年の同時期の平均水位が200センチあり、川が干上がっていることが分かる。なお、ここでの水位は浅瀬にある観測地点のもので、船舶が通る川の中心部分の水位はこれより110～120センチほど深い。

一般に、カウプ周辺の水位が75センチを切ると大型船の荷物の積載量が制限され、40センチを切ると就航が難しくなるとされる。2018年や2022年に水位が低下した際は、貨物船の積載制限や就航制限が一部で行われたほか、周辺にある化学関連施設が操業を停止し、化学製品の生産や出荷が大幅に落ち込んだ。キール世界経済研究所の分析によれば、低水位が30日続くと、ドイツの鋳工業生産が約1%減少する。

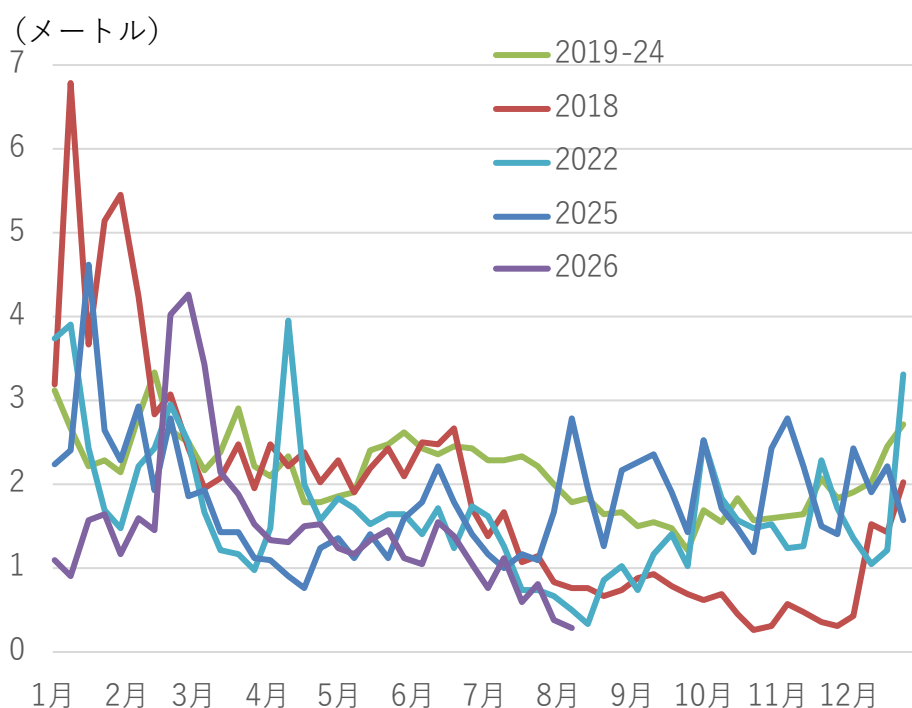
水位低下が続く今年も、貨物船の積み荷を最大容量の10%余りに制限し、鉄道や陸路など他の輸送手段に切り替えるなどの対応を迫られている。ロイター通信の報道によれば、1船舶当たりの積載量が大幅に制限されているため、ロッテルダムからカールスルーエ間の輸送コストが6月末の1トン＝45ユーロ前後から150ユーロ前後に高騰している。ロシア産化石燃料依存脱却やイラン情勢の不安定化によるエネルギー価格の上昇に苦しむドイツ企業に更なる打撃となる。

近年、カウプ周辺では水位低下による経済活動への打撃が頻繁に発生している。こうした事態に対応するため、貯蔵施設を増やし、水上輸送に頼る原材料の在庫を厚めに確保するなどの防衛

策も講じられている。代替輸送手段の確保や水位低下時も就航可能な貨物船をチャーターする動きもある。ただ、今年は過去の渇水時に比べて水位低下のタイミングが早い。例年、夏から秋にかけては一段と水位が低下しやすい。更なる水位低下で工場の操業停止が広がり、一部製品の供給不足などに発展する恐れがある。

同様の被害はドイツ以外の欧州諸国に広がっている。中東欧の物流の大動脈であるドナウ川も広範囲で記録的な低水位となっており、ハンガリー、セルビア、ルーマニアで貨物船の積載量の制限や物流コストの上昇が報じられている。ハンガリーやルーマニアでは水位低下による冷却水不足のため、原子力発電所の操業継続が困難になりつつある。

(図) ドイツ・ライン川の水位 (カウプ周辺、週次)



出所：ドイツ連邦水路海運庁資料より第一生命経済研究所が作成

以 上